

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 1月 6日
事業所名	グループホーム 瀬部
ユニット名	
事業所番号	2372200154
記入者名	職名 管理者 氏名 山本美季恵
連絡先電話番号	0586-51-6556

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		バザーなど地域の方との交流の際、パンフレットをお配りしていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		地域の中ではまだまだホームの存在をご存じでない方がみえる。今後も、もっと地域活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等に対する取り組みは行っていない。		ホームがどのようなところか知って頂けるよう積極的に来所のお誘いをしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、資料や管理者からの説明で評価の意義を再確認している。評価後はミーティング時話し合い、改善策を具体化し分担して取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を大事にし、次回までに改善・報告できるように努めている。実際、防災に関して大幅に改善され入所者・ご家族様の安心につながっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外、来所されることはない。		施設長は市役所を頻繁に訪れ、ホームの情報をお伝えする等情報交換し、向上に取り組んでいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はある程度理解しているものの、スタッフは理解していない者が多い。また、学ぶ機会も設けておらず。		外部の研修に参加した者が内部の勉強会を実施予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での講習会に参加、またマニュアルに記載してあるので定期的に目を通すことで周知している。		今後も外部・内部研修を行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が時間をかけ十分に説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所者一人一人に担当介護士がつき、ゆっくり話をする時間を設けている。ご家族様にも本音を話していただけるよう居室内でゆっくり過ごして頂くよう努めている。</p>	<p>意見が出た時は皆で話し合い、文章にしスタッフ皆が周知できるよう努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>日々の様子を連絡帳に記入し、来所時見て頂いている。おこずかい帳は月に一度確認して頂きサインを頂いている。</p>	<p>スタッフの異動は今まで報告しておらず。玄関に掲示してあるスタッフの顔写真にて報告を行っていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等は全て書面に残し改善するよう努めている。また、第三者機関を書面に明記し、玄関に掲示している。</p>	<p>ご家族様が意見を言いやすい環境作りが必要。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時意見を出し合い、ホームの質の向上に努めている。また、毎日の業務日報や3か月に1回の管理者との面談で意見を聞く場を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>十分なスタッフを確保している。また、行事時は見守りが充分できるよう勤務調整を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動もなく、離職率は低い。新入職の方へは全スタッフでフォローし早く馴染めるよう配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会を多く設けている。また、興味のある研修をスタッフ自身が選べるようにし、片寄ることのないよう勤務を組んでいる。		計画は立ててはいないが、表にまとめ均等に受けることのできるようにしている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の施設部会に入会しており、他のGHとの交流の機会にしている。また、バザーに招待し合い交流している。法人内では、月1回サービス向上の為に会議を行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安会などを通じて親睦を図っている。業務については、面談・他施設との会議などを通じて問題解決に当たっている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	社内研修・社外研修を通じてスキルアップに努めている。フィードバック研修なども実施している。人事考課を実施し、管理者により適正な評価に努めている。また、その結果を本人に伝えている。職務遂行目標の設定を行うことで各自で向上に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に必ず本人様に来所して頂き、家族と共に話を聞く機会を設けている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所に至るまでは最低でも3回は来所して頂いている。お互いに不安がないよう密に連絡をとるよう心がけている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービス利用もお伝えし本人様・ご家族様が選択できるよう対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所までの間に可能な限り来所して頂き、入所前にホームに慣れて頂くようにしている。</p>	<p>「体験入所」は可能だが利用される方は今までおらず。今後は申し込み時に説明していきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事や縫物など、スタッフが教えて頂くなどし、介護だけでなく一緒に生活する楽しみを提供している。</p>	<p>時には過剰介護をしてしまう事がある。スタッフ同士が注意し合えるようにする必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム側で何でも勝手に決めず、家族の方の意見も聞くよう努めている。		家族を含めた行事を年2回行っているが、今後少しずつ増やしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活の中で家族の名前や話をし、思いだして頂くようにしている。ご家族様には毎日の様子を記入した連絡帳を来所時見て頂き、ホームでの生活を把握できるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアにて月2回程馴染みの場所や本人様の行きたい所へ出かけているが、知人友人の面会は少ない。また、特に家族の方へのお願いもしていない。		家族からの情報を十分に得ていない部分がある。本人様との会話の中から情報を得ていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係の把握（気が合う、合わない）に努めている。また、コミュニケーションが取りやすいようスタッフが仲介役となっている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方へのお見舞いや他施設へ会いにしている。また、退去後もホームへ気軽に遊びに来ていただけるよう声かけをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>週に一度担当介護士がアセスメントし、月に1度ケアマネ・管理者を含んでアセスメント会議を行っている。話し合いの結果もスタッフに周知している。</p>	<p>月に1度のアセスメント会議を始めて間もない為、スタッフが少し戸惑っている。今後も随時改善できるところはしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前に生活歴は把握するよう努めており、その方にあった生活ができるよう支援している。また、居室には備え付けの家具が一切なく、使い慣れた物をお持ち頂くことで今までの生活を継続して頂けるようにしている。</p>	<p>入所後もご家族からの情報収集をしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日、できる/できないシートを記入してスタッフ皆が把握できるようにしている。また、一人一人に日課を定め、その人に合った能力維持や役割を持っていただいている。その、日々の記録を元に週1回のアセスメントや月1回の会議に反映させている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作るにあたり、スタッフ一人一人の意見（モニタリング）を聞いている。本人や家族の要望も取り入れ、本人に合った介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1度見直しを行っている。また、心身の状態が変化した場合は、その都度再アセスメントし作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を概ね1時間置きに記入している。また、気づきや普段と違う反応をされた時も記録をし情報を共有している。		介護記録の記入漏れが時々ありその際の対応に不備がでてしまう事がある。記録することや気付くことの大切さスタッフに周知していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日の生活における外出支援、通院等は可能な限り柔軟に対応し、入所者様・ご家族様の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議へ民生委員や地域の方に参加して頂いている。また、会議の中で市の方に来ていただき、防災について話し合いを行った。本人の気持ちに立って考えているが、直接本人の意向を聞いて行ってはいない。		事業所と地域との協働は徐々に行えているが、今後は本人の意向に沿った支援を考えていかなければいけない。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの情報提供は行っている。実際に在宅へ戻られた方もみえた。入居中の他のサービスの利用については必要性がない為今のところ行ってない。		情報を提供する為にも他の事業所との連携をもっと密にしていく必要がある。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ行ってない。		今後は連携が取れるように、運営推進会議の参加をお願いしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する病院に通院して頂いている。体調の変化の際は書面で報告をし医師からの助言を頂くようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関わりはない。		認知症について相談できる医師との関係作りから行っていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護師が月に2回の医師の健康チェックの際に同行され、些細なことでも相談するようにしている。また、体調不良の場合、対応に迷った際は連絡をし指示を仰いでいる。		看護師による勉強会を行い、関係・知識を深め日々のケアに役立てていくことを検討中。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の相談員とは週1回は連絡をとり、情報交換を行ったり、直接病院へ様子を見にいったりしている。対象者がいない時は連絡をほとんどしていない。		定期的に情報を病院側へ提供していきたい。その為にも具体的な方法を検討していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に簡単に説明するのみで終わってしまっている。繰り返しの話し合いや方針などははっきり定まっていない。		ホームでの方針をまずしっかりと確立するべき。今後、よく話合っていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームとしては終末期のケアを行っていきたいが、準備がまだまだ不十分。マニュアルもあるが活用できておらず。		医師や看護師との連携を確立しチームとして支援できるようにしていく。また、マニュアルの見直しも行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先へ情報を書面と口頭で伝えている。		情報が不十分で、移り先から連絡があることがたびたびあった為、情報提供表(サマリー)の文面を大幅に変更した。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報外部に出ないよう事務所からの持ち出しを禁止している。また、メモ書きの場合はインシヤルを活用するよう徹底している。		スタッフの言葉で誇りを傷つけないよう心がけてはいるものの、定期的に注意を促していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人分かりやすくゆっくり説明するように努めている。意志疎通が困難な方でも2択にするなどして出来るだけ本人の意思を尊重している。また、声かけに対し拒否される場合は納得して頂くまで時間を置く等している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくスタッフ側のペースにならないよう声かけをし合い、入所者に合わせている。時間の枠にとらわれず、何をして頂くにも本人に確認してやって頂くよう心がけている。		忙しさのあまり業務優先になっている時がある。心にゆとりを持って業務が進むよう指導している。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で身だしなみができるように洗面所に個人用のくしを常備している。理美容は家族の方におまかせし、馴染みの店に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日3食全ての過程ではないが参加して頂いている。一人一人の能力に合わせて声かけを行っている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別ケア等で好みの物を買って頂き、希望のある時にお出ししている。また、苦手な物に関しては別の物で代用することで対応している。		献立にも入所者の意見を取り入れている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	担当者が排泄パターンを調べ1日のリズムを作り、個人に合ったトイレ誘導を行っている。排便に関しては薬の使用方法を色々試し、医師や看護師にも相談している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に設けていないが、基本的に毎日、夕方に入って頂いている。入浴前に必ず本人の意思を聞いてから入って頂いている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間を特に設けておらず、眠たいときに寝て頂いている。日中は動き詰めにならないよう適宜休んで頂くよう声かけをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の得意な事、出来る事を探り本人と話し合い日課を作り、その中に手伝い等の役割や楽しみ(趣味)が盛り込んである。		日々の生活の中で探っていくことも重要なので手伝いをして頂いている時でも、どのように取組んでみえたのか、様子を介護記録に記入するよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていたい方はご自分で管理して頂いている。紛失防止の為、1週間に1度残金の確認を行っている。普段持っていない方は、買い物に同行した際レジにて支払いをして頂くよう支援している。		職員全員が大切さを理解しているとは言い難い。今後、学んでいく必要あり。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の様に買い物・ドライブ・散歩があり、外出する機会を多く設けている。また、月に4回は外出行事があり、全員で出かけている。その際は、無理じいせず、体調気分によって声かけしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	訴えのある入所者の方は少ないが、月に1、2度は個別で本人の希望に沿った所へ出かけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、電話を使用して頂いている。必要な方はスタッフが取り次いでいる。		手紙を書きたいと言われる方もほとんどみえないが、年賀状は本人の意思を確認し、必要に応じて支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂けるように声かけをしている。気軽に居室で話ができるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「この行為は身体拘束になるのか」を普段から職員同士が声かけ・話し合いをしている。		外部の研修に参加しているが、定期的な全員参加の勉強会は行われていない。今後、取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は8：30～17：00の間は開錠し、いつでも自由に入出入りできる。居室に施錠することはほとんどなく、本人の訴えがある時のみ行っている。帰宅願望の強い時、日中でも玄関を施錠してしまうスタッフがあり、全てのスタッフが理解しているとは言い難い。		弊害に関して理解を深めるために、勉強会を行っていく。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日勤者が全員の様子を把握するよう心がけている。夜間帯は各居室での物音を聞きとりやすい様、ホールで過ごすようにしている。(各居室がホールを囲むようにある為)		把握しきれておらず、ホーム外へ出て行かれた方がみえる。見守りの重要性を再確認する必要がある。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(針・ハサミ等)は基本的にホームでお預かりしているが、本人の状態と意思にあわせて管理できると判断した場合のみ本人にお渡ししている。異食の危険性があるものに関しては箱に入れたり柵にしまうなどしてひと手間置くことで防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット・事故報告書をこまめに記入し、全スタッフが共有する様にしている。重要な事故に関してはカンファレンスを行い、話し合い、再発防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が実施している普通救命者講習を1年に1度必ず全スタッフが受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災を想定した避難訓練を必ず行っている。水害に関しては訓練もマニュアルも作成しておらず、地域との連携はまだまだ不十分だと思われる。		台風時のマニュアルを作成していきたい。また、運営推進会議を通して地域の方へもっと働きかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護計画にあげ、家族へ説明している。短期間でのリスクのみであるし、介護計画は3か月に1度の見直しなのでその間に生じたリスクをすぐに説明できていない。体調不良が生命の危険に及ぶと懸念される場合は、連絡を行っている。		ご家族へわかりやすい説明ができるよう、方法を確立していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝血圧と体温を測定している。食事量も毎食チェックしている。普段と様子が違う場合は申し送り簿に記入するなどし、情報を共有している。必要に応じて、ご家族へ連絡し受診して頂いている。		スタッフ一人一人の考え、基準がまちまちな為、変化に気づき申し送れてない場合がある。管理者を中心に基準作りを行っている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を变化があるたびに作成し、全てのスタッフに配布している。また、時折テスト(主に効果・副作用の確認など)も行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のラジオ体操や散歩、買い物等で運動不足にならないようにしている。積極的に牛乳・ヨーグルトを献立に組み込んでいる。便秘薬も医師と相談し、スムーズな排便を促している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、介助が必要であればスタッフで行っている。また、チェック表を作成し、誘導し忘れを防いでいる。入れ歯は週1回入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を定期的に法人内の栄養士に見て頂き、助言を頂いている。一人一人に合った量を把握し食べ過ぎに注意している。水分摂取の少ない方にはゼリーを作り、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、全スタッフ目を通してしている。インフルエンザの予防接種はご家族にお願いしている。床は1日に3回ハイター拭きを行っており、冬場はさらに手すりやドアノブもハイター拭きし、予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、まな板・布巾を消毒している。食品には全て購入日を記入し、古いものから使用している。期限の近いものはボードに書き出し、期限切れの食品を使用しない様心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が散歩途中で休憩できるように、門の前にベンチを置いている。また、黒板にてお茶のお誘いをするなどし、親しみを持って頂ける工夫をしている。室内から外の道路まで段差が一つもなく、安心して出入りして頂いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節に合った作品を毎月飾り、季節を感じられるようにしている。音は不快にならない程度に「生活の音」を感じて頂くようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルをあえて2つに分けて、気の合った方同士で過ごして頂けるようにしている。ソファを3か所に配置し、好きな所へ座り、思い思いに過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物をお持ち頂き、本人と家族が相談し配置して頂いている。また、その方の好みに合わせて居室内に写真や掲示物を作り、自分の部屋だと感じて頂けるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場でも、朝の掃除時等1日1回は換気を行っている。室温はスタッフ本意ではなく入所者に伺って調節している。トイレでは臭いの気になる時は換気扇を回すよう徹底している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では手すりを利用し、見守りの中、自力で歩いて頂くよう支援している。浴室は一般家庭と変わらないが、手すりや滑り止めマットを浴槽内につけることで安全を確保している。		浴室内の事故は今までにないが、自立してみえご自分で出入りされる方は特に見守りを怠らないよう注意を促していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方に合わせた声掛けをし、今現在できない事でも根気よく声掛けをする事で習慣付けて頂くようにしている。失敗した際は声掛けを工夫し、できるだけ失敗でないと思って頂くよう心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには机と椅子が置いてあり、外でおやつを楽しむ事ができる。洗濯干しのスペースがあり、声掛けや見守りの中に行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所者が日々、気持ちよく笑顔で生活できるよう努力しています。スタッフ自身が楽しんで働いている為、ホームに活気があり、笑いが常にある。また、行事・外出を大切に、年1回1泊旅行を計画するなど活気ある生活になるよう努めています。

事業所としては環境を考え、身近な環境対策を講じています。たとえば、生ゴミをホームの畑に肥料として利用したり、残飯量を毎食後計測し、自覚を持つようにして以後減少するよう努力しています。さらに、買い物際にはマイバックを使用しゴミ袋の軽減に努めています。また、電力のムダを抑え、南側の日光がよく当たる箇所の蛍光灯の本数を調節したり、エアコンの温度調整をこまめに行うなどしています。